



子どもたちの部活動における派遣費用負担を考える 地域円卓会議

離島県沖縄において、部活動の派遣遠征費用は、
どのようにまかなわれ、どんな課題があるのかを確認する

実施報告書

日 時： 2019年12月21日（土）14:00-16:40
場 所： 琉球大学 研究者交流施設・50周年記念館 多目的室（1階）
（沖縄県中頭郡西原町字千原1番地）
主 催： 公益財団法人みらいファンド沖縄
共 催： 国立大学法人琉球大学地域連携推進機構
協 力： NPO法人まちなか研究所わくわく

報告書作成
NPO法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

ACTIVITY REPORT

【報告】子どもたちの部活動における派遣費用負担を考える地域円卓会議



- 日 時：2019年12月21日（土）14:00-16:40
- 場 所：琉球大学 研究者交流施設・50周年記念館
- 着席者数：8名（論点提供者、司会、記録者含む）
- 来場者数：38名（企業、行政、学校、学生等）

- 主 催：公益財団法人みらいファンド沖縄
- 共 催：国立大学法人琉球大学地域連携推進機構
- 協 力：NPO 法人まちなか研究所わくわく
- お問合せ：NPO 法人まちなか研究所わくわく

論点提供

荻堂 盛嗣 氏（浦添市 PTA 連合会 会長）

離島県沖縄において部活動の派遣遠征費用は、 どのようにまかなわれ、どんな課題があるのかを確認する

今回の円卓会議は、県内の小中高生が部活動で当該県外に派遣（遠征）する際のコストがどれくらい地域や世帯の負担になっているのかを確認し、将来どうあるべきかを参加者の皆さんと考えていきたいと思っております。

センターメンバー



荻堂 盛嗣
浦添市 PTA 連合会
会長



高良 朝彦
沖縄県
中学校体育連盟
理事長



浦崎 博美
浦添市立浦添中学校
教頭



上地 百華
琉球大学
国際地域創造学部



久保田 未来
琉球大学
人文社会学部



本村 真
琉球大学
人文社会学部 教授

➤ 円卓会議に参加いただいた皆さんから（※板書記録を記載）

荻堂盛嗣氏からの情報提供

- PTA は先生と保護者が一緒に子ども達のために活動。文化教養部、保険体育部、レク等
- 小学校：部活と学校の関りは無い。父母会で運営している
- 中学校：部活は学校主体。顧問（先生）が付く
- 離島大会
- 県代表→九州・全国
- 資金造成：タオル（原価 500 円）を 1000 円で販売等
- PTA からの補助：5000 円／団体程度
- 原則家庭で負担（家計）
- 父母会が中心になって動く
- PTA の会議等でブース販売
- 資金造成のノルマ：売るのがしんどいことも、イヤな顔をする人もいて、自分で買い取ることもある
- 浦添市の代表になった時、他の小学校との、お互いさまのネットワークがある
- 父母も覚悟をして、お金を貯めている
- 部活派遣費用は、1泊：3～4万円、2泊：7～8万円、3～4泊：10万円以上
- 2泊を超えると負担感が大きいので、資金造成をがんばる
- 中学校：顧問・父母会
中体連と PTA からの補助：5000～10000 万円／人
- 派遣費を出せないという保護者もいる。その時はメンバーから外れる（団体競技）
- 高校は、概ね中学校と同じではないか？

高良朝彦氏からの情報提供

- 沖縄県中学校体育連盟から、離島 6 地区にそれぞれ派遣補助費が出ている
- 県大会→九州大会→全国大会
- 19 競技…24 競技
- 令和元年県総体参加人数（夏休み）：全 20 競技、8129 名
- 運動部部員数：28,199 名
- 部活動加入率（沖縄県）：58.7%（全国：7 割）
- 県中体連離島チーム派遣補助費

地区	補助費
国頭地区、中頭地区	1,500 円
那覇地区（久米島西・球美）	3,000 円
那覇地区（南大東・北大東）	14,000 円
島尻地区	2,000 円
宮古地区	5,000 円
八重山地区	6,500 円
八重山地区（与那国島）	9,500 円

- 派遣費用全額の 1 人平均：43,549 円
- 保護者負担平均：12,063 円
- 派遣補助費：4,300 円（九州大会）、6,000 円（全国大会）
- 競技によって宿泊数が変わる
- 県補助金 970 万円。手厚くなってきている全国大会における派遣費用全額の 1 人平均：106,262 円
- 強いチームは、遠征、練習試合、他の大会に参加するが、補助金はほとんど無く、大きな負担になっている
- 中体連←学校教育
- 現場の顧問は悩ましい
- マイナースポーツ、広げるのが難しい

浦崎博美氏からの情報提供

- 浦添中学校の部活動加入率：70%を超える
- 教育振興費を派遣費として使用。300 円×12 カ月＝3,600 円／人・年
- 登録メンバーのみに、航空費・宿泊費に補助金（1泊 5000 円、2 日まで）
- 保護者は自腹
- ハンドボール部では積み立てている
- 九州・全国へ資金造成。教職員にもカンパが回ってくる
- 相撲が全国へ。協会が派遣費を出してくれた
- 3 位は補助に該当しない→PTA・保護者で
- 状況によって大きく変わる
- 県内や離島への移動では補助が出ない
- 経済的に苦しい家庭の子は、皆で補助して行かせる方針
- 文科系も、運動部と同じようにある
- 団体：55 名まで
- 楽器の運搬は、浦添市が 8 割負担
- 北大東：部活動が多くない。村が出してくれて、保護者負担は無かった
- 久米島：1 人 1 大会 2,000 円で一律
- チャリティーバザー、チャリティーグランドゴルフ、PTA・職員の大イベント
- 島の人で支えていた（しまぐるみ）

上地百華氏からの情報提供

- 小学校、中学校でバレーボール部。高校でサッカー部
- 年 3 回伊良部島から本島へ行っていた
- 小学校：なるべく本島へ行こう。島だといつも同じチームとあたってしまう。得るものがあった
- お金のことは意識していた
- 中学校：お年玉やお小遣いを使用していた
- 伊良部島から宮古島、那覇市と、移動が大変だった
- 大会前日に移動。コンディション

久保田未来氏からの情報提供

- 高校生で文芸部に所属。
- 推薦で長野へ（高文連）（勉強・交流）
- 家計負担 8 万円（3泊4日）

本村真氏からの情報提供

- 部活動加入率（沖縄県）：58.7%（全国：7割）は衝撃である。貧困と関連があるのでは
- 小学校から中学校へ、部活を続けることができると大きく崩れない
- 小学校3・4年生の低学年は、学校に居場所を感じれない子が出てくる。部活でつなぎとめられると
- 派遣費用以外の親の負担：チームでジャンパーを揃える。当番など
- 親が非協力的でも、子どもが参加できる制度が必要
- 貧困の連鎖を断ち切るような派遣費用補助の仕組み
- 自己肯定感：できた！一緒にいられる！という経験。できる、と共有した仲間
- 子どもが向いていても、親・家庭の状況で選択できない。ということが無いように

セッション2における情報提供

- 地域力の低下：子ども会が維持できない。自治会への参加者が減少してきている。地域の方にお願いしづらい
- 子どもと地域の距離
- 部活動の成果を地域へ
- サンライズフェスタ（浦添市）→応援に繋がる
- 部活動を社会で支える。貧困を無くす。健全育成
- 継続すること、課題をクリアすること、できるようになること
- 人と人との繋がり、仲間。ソーシャルキャピタル
- 地域に支えられたという経験から、育った地域への愛着
- ブラック部活動。働き方改革。
- 先生が全ての協議をみるのは無理
- 中体連と協会の大会
- 地域の受け皿が無い中でどうするか。これからの地域の壁
- 文科系を支えてくれるかな
- 学校、地域、OBOG
- マイナー、同好会

➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

1) 定量調査

まずは中学・高校を中心に、あらゆる部活の派遣費のかかる大会の総量を調べ、同時に派遣にかかる補助制度を明らかにし、どれくらいの家計負担があるのかを調査すべき

■参加者によるサブセッション

離島県沖縄において部活動の派遣遠征費用は、 どのようにまかなわれ、どんな課題があるのかを確認する

(参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載)

- ① ・PTA 会費は一世帯で徴収。
・資金造成が多いと難しくなる
→補助費もあるが自己負担も多い
・金銭的問題で行かなかった子もいる。
→大小色々の大会もあるため、小さい大会はそういう場合もある。金銭的余裕が影響している。
・保護者からの要望で多いのは？
→行政による補助割合の拡大。
→やはり資金造成のノルマがきつい。
→出来る人、出来ない人がおり、チームで割れる為、不仲になる事もある。色々な人がいる。
- ② ・負担が大きい(自分であきらめてしまう)
(自己肯定感が消えていく)
コミュニティーでできないか
子どもに責任はない
市で補助がある。(片親)子どもがわかっている。課題
部活に参加できるようにできないか
市町村によって補助率が違う。子どもの可能性を広げる。
地域:一部の子どもたちというのはいかなしい
(セフティーネット)
★あたり前と思っていた。わからない。見えづらい。
行けない友だちがいた。部活に入っていない。
休眠預金の活用(会社?個人? 今年から。
- ③ ・子どものひんこんとのつながり
・思っていたより補助が多い
・教育の一環の枠組みの中であるならお金出してもいいけど...
- ④ ・部活動共生のところもある。
・資金造成のしくみ(OB)から
- ・学業優先の学校も。
・大きな大会でないと助成金がないので負担が大きい
- ⑤ ・チームメンバー以外に応援メンバーも派遣へ→資金集め
・ダンス部の公演費
・地域のコンビニに寄付箱
→知っている子いなくても応援してる感じ→見ず知らずの人
・母子家庭、親せきで協力可でも一緒に入りたい(母子家) 友達は入らないから、子どもが遠慮
・用具費 ・コミュニティカ、地域力で子育て←学校って子がいる 3年、地域力で子育て
・祭り、バザー多。子どもがいなくても支援可
・学校どこでも行けるようになった→コミュニティ減
・クラファンで全国の人に呼びかけ可
・部ごとに資金集めに(額)に差が出る?
→県でまとめて集まる 県クラファン(～中～部)
→入金の際に指定できる(700円出身校300円どこでも)
- ⑥ ・派遣全額そのものが大きい
・不平等
→みんなから集めた税金を同じ人(同じ学校)にばかりあげるのは不公平なのでは。。
→集める時は公平でも、使う時は不平等。。
- ⑦ 派遣費について
1.身の丈に合った活動をして大会を選択して参加する。
2.部活動の見直し→時間が長い

3.資金造成も親に負担が大きい。

4.部活指導者の問題 考え方←★勝利主義

★生涯スポーツ等 費用に対する考え方

5.貧困と部活を結びつけて考えるのは、無理がある。

- ⑧
- ・部活の見直し→派遣費の件も解決する
 - ・貧困と部活を一緒に考えるのは違う
 - ・派遣費とえんせい費
 - ・部活が親の首をしめている
 - ・部活の時間が長い(過度な時間) …沖縄の子 成績の問題(悪)
 - ・小学校の部活指導者の問題。
勝利が楽しむ 部活
- 派遣費については身の丈に合った活動をしてきちっと決めて参加する大会を選択して参加する。しょうがいスポーツ
- ⑨
- ・地域円卓会議の進め方や質問の仕方、グラフィックレコーディングに注目してみた。
 - ・放課後子ども教室は一切自己負担がかからないので、貧困家庭の子どもたちに有効
 - ・討論者の話を聞いて、自治体ごとで遠征費

のまかない方の違いを知れたのは興味深かった。

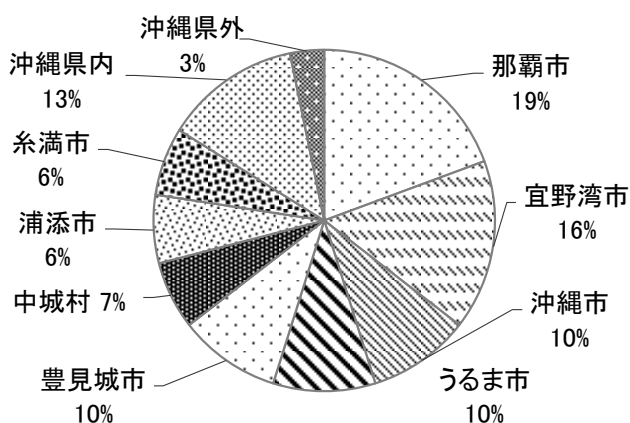
- ・保護者でない市民の支援は実際にあるか気になった。
- PTCA、制服や道具のおさがり(使い回し)
- ・子どもの毎日の居場所を作ってあげるのがPTAの役割。
- ⑩
- ・部活のコミュニティーを保つために。
 - ・最低限以上の費用がかかる
- ⑪
- ・先生の資質にも部の運営が左右される
 - ・月々の費用が払えないと、その部活には入れないことがある
 - ・競技性のある地域スポーツクラブと学校での教育の一環としての部活を分けた方が良いのではないか
- ⑫
- ・新しい部活動に対し、取り組み等の仕組。
 - ・毎年16マン掛かる造成が重なると負担がある。
 - ・クラウドファンด์も検討していた。
 - ・事例がない。
 - ・資金造成に親子も参加

子どもたちの部活動における派遣費用負担を考える地域円卓会議 参加者アンケート集計

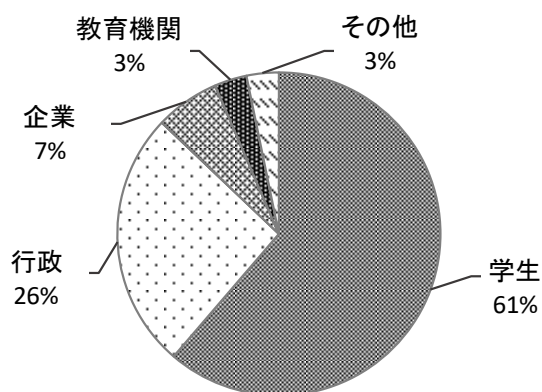
◆概要

- ・日時：2019年12月21日（土）14:00-16:40
- ・場所：琉球大学 研究者交流施設・50周年記念館
- ・着席者：8名（論点提供者、司会、記録者含む）
- ・参加者：38名（アンケート回収31名、回収率82%）

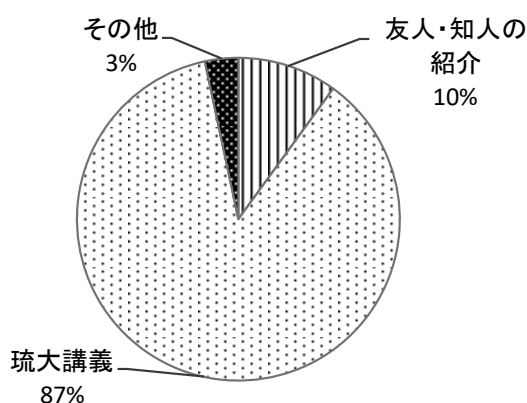
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



4. 満足度

平均：4.5（5点中）

5.満足	4.概ね満足	3.普通	2.あまり満足していない	1.不満足
18名	11名	2名	0名	0名

5. 満足度の理由

（5. 満足）

- ・ 多様な関係者の視点で課題が可視化されていく過程を共有できることの意味を感じました。
- ・ 内容、進行ともに充実したためになりました。特に学生（本人）が参加していることが良かった。
- ・ 自分の知らない知識をきいた上で、自分の考えを人と共有する場があり、とても良かったです。
- ・ 学校側、当事者側や、その他参加者など、様々な視点から意見が聞けたので、気づきや知識がえられて良かった。
- ・ 直で、多様な意見を聞き体験することができたから
- ・ 様々な分野の意見が聞けてためになった
- ・ 小、中、高部活をやっていたが、費用について考えたことがなかったので、いい経験になった。
- ・ 議題に対し、いろんな視点からの話を聞いて満足。司会進行のおかげでグダリもなく良かった。
- ・ 地域円卓会議に参加する事で、会議の流れや、考え方を少しわかったように感じました。
- ・ 沖縄県の子どもたちの部活動における派遣費用負担の現状を深く知ることができたから。
- ・ 現場の実状や課題が色々テーマに派生して聞けて良かった。
- ・ 初めて円卓会議というものに参加して、どのような流れで行われるかだけでなく、今回の

テーマについて学べたことが多かったから。

- どのようにして、課題をしぼって、いくのかの過程がわかったから。
- ためになる話が聞けた。知らないことが知れた。
- 1.円卓会議の進め方がよくわかった
2.テーマの背景が理解できた
- 知らなかったことを知り、考えることができたから。
- 円卓の会議に初めて出席し、会議の流れを見る事ができたから。
- 初めて円卓会議に参加し、また学生としてセンターメンバーの席に座らせて頂いてとても貴重な体験ができた。セッションを通して、様々な立場の方のお話を聞き、学びを深めることができた。

(4. 概ね満足)

- 若い方が多くて意見が聞けた。時間がもう少しほしい。
- 部活派遣費への現状と意義について知ることができた
- 実際の「沖縄地域円卓会議」を体験できたから。センターメンバーやグループワークで一緒になった方々から色々なお話を聞き、また、自分の経験をふり返ったり、課題について考える機会になったから
- サブセッションは全グループ発表がいいと思いました。(1グループ時間をきめて) 住民どうしなら尚、必要かもと感じました。
- 会議の進行だけでなく、テーマについても考えさせられて、得るものがありました。
- 知らない事実を多く知ることができた。一方情報が多く、整理するのが難しかった。
- 円卓会議の概要について、幅広く詳しく知ることができた。
- 内容はとても良かったのが、書くことで話を整理するタイプなので、メモを個人でとらないという方式が私には合わなかった。
- 現状を知る機会となった

- 遅刻してしまったから
- 参加者とセンター陣との間で議論が深まってゆく様を体験できた。

(3. 普通)

- 円卓会議が論点を共有するものであるという事は分かっていたが、結論を出さない会議って少しモヤモヤして難しいなと思った。

6. 円卓会議で印象に残ったこと

- 市によって補助のルールが異なるという点が印象的でした。受益者の範囲対象とする部活動
- クラウドファンディングを使ってやるのはgood。ここにも貧困の問題は大きいと思った。
- 「地域とのつながり」金銭的な支援というより、応援へという考え。
- 円卓会議の前までは派遣についての社会的意義が分からなかったが、貧困問題や居場所、自己こうてい感に関わることに気づいた。
- 地域との関係も大切な視点だと思いました。
- 日頃、地域に貢献していないと、派遣費用の協力が頼みづらいという、お話を聞いて、さびしい社会だなと思いました。私は(木村先生がお話されていたように) 地域に育ててもらった思い出があるので、誰の子供であっても、子供は地域で育てるものという考えです。(象だって群れで子育てするのに…) 新自由主義の悪しき自己責任論がはびこっているのかな…とってしまいました。
- 今回の議題から、さらにブラック部活のこと、地域とのつながりにまで話が広がり、さらに考える余地があるという雰囲気が印象に残りました。
- 部活のしすぎは社会悪なのかと思っていたが、木村先生のお話によるとセイフティネットにもなっている(なりうる)ということでおどろいた。
 - サブセッションのチームで出たことだが、部会についてバランスよく(身の丈にあった)

考えでいくことが大切だと思った。(貧困問題の視点だけでなく、学力についてや、親同士のかかわり方など含め)

- ・ 部活動と貧困のテーマについて考えさせられた。部活は子どもの健全な育成に寄与するけれど、PTA 会長は自己負担が大きすぎるし、貧困家庭は中々協力的になれない、ジレンマがある。保護者だけでなく、市民も支援できる仕組みをつくるのは良いアイデアだと思った。
- ・ 最後のふり返りで、”論点”が多く挙がりました。というまとめ方がなるほどと思いました。
- ・ 休眠口座の活用について、良いアイデアだと思った。田舎(地域のつながりが強い)と都市部(弱い)ところのコミュニティーの差や、そこを良くしていかないといけないと感じた。
- ・ 私の家族は、部活に力を入れるので、教育とはなれて民間に委託するのはざんしんだと思った。
- ・ そもそも部活でいいのか、などの大元の根源を考えるような論点が出てきていて、いいなと思った。
- ・ 資金を集める際の、クラウドファンディングの利用が良いアイデアだと思った
- ・ サブセッションをグループ変えて2回ほどできれば良いなと感じた。
- ・ 部活動の取組みとして「競技」と「教育」の目的別に分けるという案はいいと思った。
- ・ いろんな当事者、関係者の生の話をきくのはもちろんだが、やはり学識者の意見というのは重要だと思った。議題の背景や軸がけっこう明確になる感じがする。
- ・ 議論を行い、解決するのではなく、共有して、考えていく事が円卓会議だと感じた。
- ・ 卒業等の参加を想定したクラウドファンディング
- ・ 地域と保護者との関わりが困難であることが印象的だった。子ども j を地域と結びつけ

るためには保護者がかけ橋となる必要があると感じた。

- ・ やはり地域で受け入れる状況が必要と感じた。それは「部活等ではなく、児童全体として、どうするか？」という点
- ・ 離島だからこそ直面する問題であると思ったし、さらに離島の宮古や久米などは、のりつきや移動の負担がさらにますのだなと印象に残りました。
- ・ 親の立場、学校の立場、中体連との立場と、また地域別の事情の差など、濃い内容がぎゅっとつまっていたように感じた。意外にも、大きな問題の見えかたをくれるテーマだった。地域との連携の部分が、検討がされていることがわかったのは大きいと感じた。
- ・ 協力しあうむずかしさが印象に残りました。人間関係と社会づくりはどの問題にもからんでくるんだなと。また、経験によって視点感性が異なるのがおもしろかったです。
- ・ 派遣費の負担は〇〇〇ないが、学校の部活と地域のスポーツチームの違い。地域と学校、家庭のかかわり方
- ・ 休眠資産を活用した助成金はおもしろいアイデアだと思いました。
- ・ サブセッションの中で、部活動そのものにかかる経費がかかりすぎているから、そこを助成できれば旅費は捻出できるという点は、確かにそうだと感じた。
- ・ 費用負担が、多種多様である事を知り、問題を理解する事ができた。
- ・ 地域内の関係性がいかに重要であるか、親(PTA)目線からの考え等が印象に残った。サブセッションの際、OB から支援を頂いているという体験談を聞き、地域の方が関わってくる(指導者で)小学校の資金助成では、持続可能である為良いアイデアであると思った。

(写真) 会場の様子



子どもたちの部活動における派遣費用負担を考える ①

地域円卓会議

2019年12月21日(土)
14:00~16:40
◎琉球大学 50周年記念館

テーマ
地域の困りごと社会課題を
共有・共有

離島県沖縄において
部活動の派遣遠征費用は、
どのようにまかなわれ、
どんな課題があるのかを
確認する

主催 公益財団法人からいふた沖縄
共催 国立大学法人琉球大学 地域連携推進機構

琉球大学 公開授業
休職預金と活用した民間公益活動の環境

論点提供

3 荻堂盛嗣さん
浦添市PTA連合会 会長

PTA 先生と保護者から、子どもたちのための活動、文化教室、保健体育等、

小学校 部活を学校の枠内で行い、父母会が運営している

中学校 学校主体、PTAがつかい、

離島大会
県代表→九州全国

資金造成 高橋さん ②

タオル 500円原価→1000円で等
PTAからの補助 5000円/個体くらゐ

原則 家庭で負担 (家計)
父母会が中心になって動く
PTAの会議等でグッズ販売

ノルマ、自分でかかっていたり、売るのがしんどいことも、負担を減らす人も、多い...

他校へも?
浦添市の代表→お互いのネットワーク

父母の力かかると、お困りな方が、

1日 3~4万
2日 7~8万
3日 10~5万
4日

2泊3日で負担が大きくなる

中学校
PTA、父母会
中体連

出た金という保護者から、メンバーからは出ない(団体競技)
高校←中学と同じ?

3 高良朝彦さん
沖縄県中学校体育連盟 理事長
61年目
6地区→それぞれ
県総体(夏) → 県 → 九州 → 全国
19競技...24競技

全20競技 8129名
28,199名 (部員)
58.7% (部活動加入率)
(全国7割)

県 1500円 3000円 4000円 (南北)
5000円 6500円 7500円 (東古) (小島山) (千那国)

派遣費 全額 43,549円 (平均)
県 12,063円 (平均)

九州 4300円
全国

種目により泊数かわる、3~4泊

970円 (県補助) であったら、7370円

全国 06,262円 (平均)
33,809円 (平均)

強さチーム → 遠征、練習試合、他の大会参加、補助は、

中体連、00協会、大大会参加、2ヶ月前、

4 浦崎博美さん
浦添中学校 教諭
70%以上(部活動加入率)

教育振興費 → 派遣費で、300円×17ヶ月=3600円/人/年

航空費・宿泊費 (1泊5000円・2泊まで)
学費・バス・のり
保護者負担 (平均)

バス・ホテル → つまみで、九州全国、資金造成、一校あたり、

中体連以外、でもう一全国へ、協会の1ヶ月前、

3泊は本財が、県内離島物産、状況は、

文化系 → 運動部と同じように、団体 55名まで、楽器の人は、市8割負担。

離島 北島、部活動が、村を出て、保護者負担、(久米島) → 1人1大会 2000円-1

知事、PTA、職員、一大イベント

3 上地ももかさん
琉球大学

小学 バレーボール
中学 バレーボール
高校 サッカー

年3回 本島へ、いざ、

④ 本島へ遠征行くと、得た、島で、お金、(中学) → お年玉、

いざ、大会前日、

久保田 未来さん
琉球大学 1年
文芸部 → 長野へ (高文連)
勉強交流、(和中心)、案計 8万円、3泊4日、

3 本村真さん
親 師範
琉球大学

58.9% (加入率) → 全国7割、毎回の遠征、

部活を、小学生、部活、学校に居場所を感じ、部活、

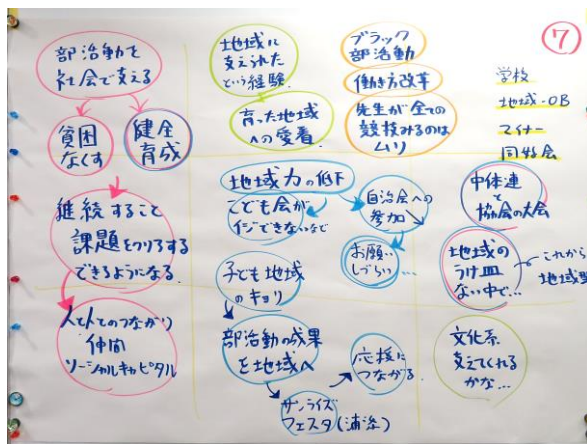
費用の前、親の負担、(小) → (中)、(中) → (高)、

親が非協力的でも、子が参加、(制度)、

小 → 中、(小) → (中)、(小) → (中)、

6 自己肯定感、できた!、経験、できる、経験、

子が、親、状況、



・子と親の心のつながり
 ・思えば(甜)がたい
 ・教育の壁のゆく組
 中であるお金の出
 いかい...

●部活動強制の
 ところもある

●資金造成のしくみ
 (05/23)

●卒業優先の学校

・大きな大会では
 助成金が無いので
 負担が大きい

- ・チームメンバー以外に、応援メンバーも派手に参加
- ・がス部の公演費
- ・地域のイベントに寄付金 (寄付金)
- ・母子家庭、親世で協力
- ・一様に入った (母と) 友達に入らなから、子どもも (負担) 増える
- ・用具費、コミュニティ、
- ・祭り、(母) 子どもも (負担) 増える
- ・学校でも行けるから (母) 負担
- ・クラブで全国大会に呼ばれる
- ・部活に資金集めは (負担) 増える? (母) 負担
- ・家で暮らして集める (負担) 増える (母) 負担
- ・入金の時に指定 (2009 年 11/16)

- 派遣員について
1. 身代わり活動として (負担) 増える
 2. 部活動、見直し → 時期決
 3. 資金造成も親の負担が (負担) 増える
 4. 部活指導者 (母) 負担 (負担) 増える
 5. 資金に部活を結びつけて (負担) 増える

1. 部活の負担 → 派遣員 (負担) 増える
1. 派遣員 (負担) 増える
1. 部活の親の負担 (負担) 増える
1. 部活の負担 (負担) 増える
1. 小学校、部活指導者 (母) 負担
1. 部活の負担 (負担) 増える
1. 派遣員 (負担) 増える

派遣金額そのものが大きい
 ・不平等
 ・地域から集めた税金
 ・同じ人 (同じ学校) に
 ばかりあがるのは不公平
 なのでは...
 ↓
 集めるときは公平
 使ったときは不公平...

●新しい部活動に対し、
 取り組む等の任意
 掛かる
 毎年16万 負担と負担がある
 フラットなコストを検討していた
 負担がある

資金造成に親子の負担

先生の資質にも部活運営が
 月々の費用が払えないと、
 その部活に入れないことがある
 ・競技性のある地域スポーツクラブ
 学校での教育の一貫としての
 部活を分けた方がよいのではなか

●部活のコミュニティを保つために
 ×最低限以上の費用がかかる

- ・地域円卓会議の進め方や質問の仕方、ガラスクローニングに注目してみた
- ・放課後子ども教室は一切自己負担が
 かからなくて、貧困家庭の子どもに有効
- ・■討論者の話を聞いて、自治体ごとで
 差支障のつかない方の違いを求めたのは
 興味深かった
- ・保護者でいい市民の環境は実際に (負担) 増える
 → PTCA、制服や道具のおさがり (使い回し)
 子どもの毎日の居場所を作っているのが PTA の役割

負担が大きい (自治体ごとで違う)
 コミニティーで (負担) 増える

市で補助がある (片親) だと (負担) 増える
 部活参加で (負担) 増える
 市町村によって補助率が違う
 地域、一部は (負担) 増える
 市町村によって (負担) 増える
 行中 (負担) 増える

・PTA 会費は一律で徴収

資金造成が多いと難しくなる
 ・補助費もあるが自己負担が多い!!
 ・金銭的問題で (負担) 増える
 ・保つ者からの要望 (負担) 増える